

平成30年度 あやの台保育園事業報告

1. 概要

①運営方針

- 橋本市は安心して子育てのできる環境を目指して、平成29年4月より橋本市の保健福祉センター内に「子育て世代包括支援センター」が設置され、31年度より新たな新部署としてスタートしました。身近な相談場所として当園の利用者支援事業や地域子育て支援センターもそれに連携し切れ目のない支援を行ないました。
- 人材確保については若干の異動はありましたが、早めの学校等への求人や紹介会社を通して配置基準を満たす保育士の確保ができました。
- 地域の中学校区内（中学校1校、小学校3校、こども園2園、共育コミュニティコーディネーターや2ヶ所の公民館）で、子ども達の交流はもちろんのこと職員間の交流等も行い、地域共育コミュニティに積極的に参画しました。
- 開園して13年が経過し、保育室の床やウッドデッキ、大型遊具や設備機器等の経年劣化が著しく進んでおり、園内外の必要な箇所から補修、取替えを実施しました。

②定員 110名 合計124名（定数外14名）

③事業日数 293日（日・祝日及び12月29日～1月3日は休園とします）

④開園時間 平日 7:00～19:00（20:00）
土曜日 7:00～18:00（19:00）

⑤保育時間

平日	早朝保育	7:00～9:00	土曜日	早朝保育	7:00～9:00
	通常保育	9:00～17:00		通常保育	9:00～17:00
	延長保育	17:00～19:00 (20:00)		延長保育	17:00～18:00 (19:00)

⑥職員数

園長1名、主任保育士1名、看護師2名、保育士23名（うちパート保育士7名）
保育補助3名、栄養士2名、調理員4名、その他2名

2. 保育運営

①保育理念

- 子どもは子ども同士認め合い、助け合い、励まし合い、学び合う子ども社会の中で成長することが望ましいと考えます。

- 私達は、子どもの個性・人格を尊重し、自立を促し、日々の生活の中で家族とともにその成長・発達の援助を行います。

②保育方針

- 子ども達がいきいきと生活、活動できる環境を整える
- 自分らしく生き抜いていく土台を培う
- 立腰保育・教育で心と体を整える

③保育目標

- 友だちと助けあえる子
- 心身ともに健康な子
- 失敗を恐れず、色んなことにチャレンジできる子
- 優しさや思いやりのある子
- 腰骨を立てる 躰の三原則（挨拶は自分から先にします、返事はハイとはっきりします、履物を揃え椅子は入れます）

④クラス体制

0歳児	10名	保育士	3名
1歳児	20名	保育士	5名
2歳児	24名	保育士	4名
3歳児	24名	保育士	2名
4歳児	22名	保育士	1名
<u>5歳児</u>	<u>24名</u>	<u>保育士</u>	<u>1名</u>
合計園児数	124名	保育士	16名
主任保育士		1名	
障がい児加配保育士		1名	
延長保育担当保育士		2名（パート保育士1名）	
一時預かり事業		1名	
地域子育て支援センター		3名（うちパート保育士2名）	
利用者支援		1名	
病後児保育事業		2名（看護師・保育士）	
保育補助、その他		3名	

⑤保育内容

- 教育哲学者 森信三先生提唱の「腰骨を立てる」(立腰教育)を目指し、「挨拶は自分から先にしよう」「返事はハイとはっきりしよう」「履物を揃え、イスをいれよう」の躰の三原則も日々積み重ねて実践してきましたが、保育者間での共通の意識に対する課題(正規保育士と非常勤保育士の意識の差)も見られたため、今後も園内外の実技研修等を通して職員の意識向上に努めました。
- 乳児クラスは、保育士の愛着関係のもと安心して過ごせるよう、子ども一人ひとりの発達、状況に合わせた関わりを大切に、少人数のグループで過ごしました。保育士間の連携や動線、環境構成についても話し合いをしながら進めました。「一日の流れ」の見直しをしながら次年度へ引き継ぎます。尚、「じゃれつき・運動遊び」の内容が若干マンネリ化してきたため、実践の研修を通して学ぶ機会を作りました。
- 石井方式幼年国語教育(漢字仮名まじり絵本等)や時計、百玉算盤の進め方については学年で内容のばらつきも見られたため、次年度は実践の研修を実施予定です。
- 仲間とのコミュニケーションづくりや体力づくりの為、安田式遊具を用いての共感遊びやサーキットあそびなど日々取り組み、また園内研修等で実践を通して学ぶ機会も作ってきました。引き続き継続して感覚統合を意識した遊びやリトミックも行い情緒や体の発達を促していきます。
- 毎月の製作(絵画)活動により表現する機会が増えました。法人内研修で学んだ掲示方法を参考に保護者に見て頂く機会を設けました。
- 栄養士と作成した年間食育計画に基づき、食育のテーマ「お米丸と日本めぐり」を行い、子ども達が食材や献立に関心を持ち、クッキング活動等を通して食に関しての興味・関心が深まるようにしました。また親子クッキング2回(11月10日、2月2日)ではアンケートで希望の多かった“手作りおやつ作り”を実施し大変好評でした。「保育を楽しむ日」に食べていただいた給食についてはアンケートを実施し、今後の献立等に反映できるようにしました。家庭とも連携して食育を行なえるようおたよりやレシピ冊子の配布等でも情報発信を行っていきます。
- 保育理念にある子どもの発達や個人差、また、国籍や文化の違いなど、子どもの個性人格を尊重し、人権に配慮した保育を行うことを職員全体で確認するとともに、全国人権擁護委員連合会のリーフレット「種をまこう」を使って人権年間計画を作成し月一回こども達と話し合う機会を作りました。
- 「自然体験学習」を通して森の散策や竹切り、木工クラフトなど地域のボランティアの方々と接したり、自分たちで考えたり、工夫したりする場の体験ができました。今後も地域資源を利用し積極的に体験を行っていきます。
- ユネスコスクールの認定を受け、あやの台幼稚園とともに「ESD」(持続可能な社会開発のための教育)を意識し取り組みました。

⑥家庭との連携

- クラス懇談会(4・5月)では、保育理念、目標、保育内容、立腰教育、基本的な生活習慣の重要性についての内容をレジュメを作成して保護者に伝え、年2回(6・2月)の個人懇談では、保護者の思いを聞き取りながら、子どもの育ちを具体的にわかるように伝えました。

- 今年度は保護者の希望もあり保育参加日（保育を楽しむ日）を年2回にしました。園での子どもの様子を見て頂いたり、給食を食べて感想を聞くなど、園の保育についてより理解を深めてもらう機会作りに努めました。0, 1, 2歳児クラスは保育参観に加え、保育参加も実施しました。
- 保育内容等については、ホームページやおたより、掲示物やメール配信などのできる限りリアルタイムに情報発信を行いました。
- 園行事や環境整備等保護者に積極的な参加を促し、保護者との相互理解が深まるようにしました。
- 親子で一緒に遊び体験できるイベントや講座については親子クッキング以外の内容も計画していきます。
- 5歳児の保護者向けにあやの台小学校の校長による「小学校入学に向けての話」を実施しました。（2/14）参観と合わせて行ったこともあり、大半の保護者が参加され熱心に話を聞いておられました。今後も小学校と連携し継続して行っていきます。

⑦人材育成

- 園内研修【保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領、発達、運動、遊び、立腰など】や、法人内研修【三法人合同研修】または外部の研修会【日本保育協会主催研修、主任保育士、乳児保育、健康・安全、和歌山県主催の地域子育て支援、キャリアアップ研修（マネジメント、乳児保育、幼児教育、障害児、保護者・子育て支援、保育実践）橋本市主催等の発達支援（1回）、安田式体育遊び（2回）、感覚統合（2回）危機管理・安全（1回）】橋本市私立保育園会主催の研修会（2回）等）に参加し、専門職としての知識や技術の向上を図りました。非常勤保育士も積極的に参加できるようにしたり、共有できる時間を作るように努めました。
- 立腰保育については、特に非常勤保育士に研修の時間を多くとり子どもへの関わり方などの実践研修を行った。非常勤職員の意識向上にもつながってきているので次年度も引き続き行います。全職員が丁寧に根気強く継続することを大切に保護者にもしっかりと情報発信を行いながら、一丸となって取り組んでいきます。
- 研修計画に基づき、看護師による保健研修を月1回行いました。継続して行う中で内容等が同じものがあるため、外部研修に出たり、外部資料を使うなどし、マンネリ化しないように工夫しました。実技研修（救命救急 AED・アレルギー・SIDS など・感染症対応など）も引き続き積極的に行います。
- 橋本市私立保育園会主催の研修会（5月感覚統合、12月保護者対応について）を行いました。
- 子育て支援員研修「利用者支援事業」は事業に携わる職員1名が受講しました。
- 同中学校区の小学校のサマースクールや地域の活動に積極的に関わることで、地域と共に子育てをしていくという意識を持てるようにしました。（サマースクール、土曜講座、わいわい集会等）
- 県の幼児教育アドバイザーによる巡回指導や市の発達相談員等による年2回の園訪問で保育について、配慮の必要な子どもへの関わり等の話し合いや保育の質の向上を目的に行われました。
- 園内の知り得た情報は速やかに園長、主任に報告・連絡・相談し、全職員が共有できる組織体制づくりに努めました。

⑧地域の実態に対応した事業

地域子育て支援センター事業「ポトフのおなべ」

- 市の広報誌に地域子育て支援センターの欄を設けてもらい、継続して情報発信を行いました。また、ホームページやメール配信でより細かく又リアルタイムで情報発信も行いました。
- ルーム開放の延べ約712組（1457名）や親子登園2歳グループ174組（287名）、1歳グループ約137組（283名）、園庭開放約139組（288名）、子育ての集い276組（589名）、おはなし広場約71組（145名）、公園出張6回、31組（65名）、サークルへの出張は6回、50組（99名）の参加、利用がありました。
- 橋本市市民病院内にも子育て情報のおたより等を置き、情報発信を行いました。
- あやの台ハウスや集会所を有効活用し、ほっとできる環境の提供やさらに良い親子の交流、相談ができるようにしました。（妊婦、0、1歳の親子など）（月1回）
- 地域の子育て家庭を対象に幼稚園と合同の説明会や体験保育を行い、親子のふれあい遊びや絵本紹介などのコーナーの充実、給食、おやつレシピ等の情報提供を行いました。
- 橋本市より委託を受けている「利用者支援事業」での相談件数は26件でしたが、子育て支援センター利用の際に相談を受けることが多いので、関係機関と連携を図るために分けて記録しました。また市の「子育て世代包括支援センター」等の関係機関との連携を更に図りながら充実した内容で支援していきます。

その他の事業

- 一時預かり事業の利用者は452名でした。里帰り出産や育児負担解消等での利用や問い合わせも多いことから、利用数も増加しています。
- 病後児保育室の利用は14名でした。他園在籍の方からの問い合わせもあるため、今後も病後児保育室の必要性を市と協議していきます。
- 中学生の職業体験学習（10名）、実習生（9名）の受け入れを行いました。
- 地域の幼保小中校との交流（公開保育、授業参観、コンサートへの参加など）や職員の情報交換を行いました。中学校区の教育関係者や地域の方と行う共育コミュニティ活動（共育ミニ集会（12/8）、リサイクル活動として古着を難民キャンプに届ける“服のカプロジェクト”、地域清掃、小学校の土曜講座やサマーチャレンジの参画など）にも積極的に参加しました。
- 毎月の市の移動図書館（ブッキー号）の来園時に、子育て支援担当者で連携を図り、絵本や紙芝居の読み聞かせを行い、絵本に触れる機会を多く持ってもらえるようにしました。
- 小学校、地域自治会等と連携し、8月に「夏祭り」に参加しかき氷の出店を行いました。
- 同地域内の小学校の学童保育利用の児童との遊び等の交流は学童施設の増設工事等もあり実施できませんでした。
- 「緑の募金事業」の補助を受け、園周りへの植樹（サツキツツジ300本）や「郷土の森自然学習棟・ひだまりの郷」にて自然体験を行いました。

⑨苦情処理

- 苦情解決窓口（苦情受付担当者を松山利加、解決責任者を武藤廣茂と）、第三者委員（2名）の設置を入園準備説明会（2/24）時に重要事項説明書の説明や掲示等で保護者に知らせました。
- ご意見 BOX への投かんはありませんが、口頭での意見、要望等を伺ったものについては、24時間以内に回答することを心掛け、今後も速やかに対応していきます。保護者や地域の方からいただいたご意見は6件でした。

⑩リスクマネジメント

- 危機管理マニュアル（災害、防犯、感染症、食中毒、衛生、アレルギーなど）は実施研修をしながら内容の見直しを行いました。
- 事故防止のためにヒヤリハットや問題解決用紙の内容は、昼礼などで迅速に情報の共有が出来るよう心掛けました。
- 施設内外の設備、用具等の清掃、消毒・点検などについては看護師が中心に行い、衛生管理に努めました。
- 年2回消防署との総合訓練や消防点検など、関係機関と連携し、災害時に備えました。地域防災訓練についても自治会や小学校とも連携し、実施の際には積極的に参加していきます。非常用の備蓄品は3日分（アレルギー用も備蓄）の消費期限の確認を行い給食として提供し、新たに購入しました。
- 非常災害時や感染症発症や不審者などの情報については、リアルタイムでメール配信と掲示板により、保護者に伝えました。
- 保健所からの感染症等の情報についてはリアルタイムで情報提供を行いました。園内の感染症等のお知らせや注意喚起はメールや手紙、張り紙でお知らせしました。
給食室の立ち入り検査（11/9）が行われましたが、指摘事項はありませんでした。

⑪設備の改善及び物品購入について

- ・空調設備（冷房）
- ・LEDへの移行
- ・給食室（冷蔵庫）
- ・オーニングテントの設置